



7/2

すすむ
原 晋 講演会



市民会館川之江会館で、青山学院大学の陸上競技部長距離ブロック監督である原晋さんによる、ビジネスの経験を生かしたチームづくりや「まずはチャンスを与えることが大切」など選手の育成方法についての講演がありました。原さんが語る箱根駅伝などの話に、参加した約 360 人の来場者は熱心に聞き入っていました。

7/3

社会を明るくする運動啓発パレード



市役所本庁舎周辺で社会を明るくする運動の啓発パレードが行われました。庁舎前広場で西保育園の園児による鼓隊演奏などの出発式が行われた後、四国中央地区保護司会や更生保護女性会など市推進委員会の約 180 人が、地域で力を合わせ、犯罪や非行のない社会の実現を目指す活動の推進を呼びかけました。

7/9

企業合同就職説明会 in 松山



松山市のひめぎんホールで四国中央市企業合同就職説明会が開催されました。企業と学生などとのマッチング機会を創出し、優秀な人材の確保と地元企業の魅力などの情報を発信することを目的としていて、当日は企業など 45 社がそれぞれ工夫を凝らしたブースで説明し、参加した 31 人の学生らも熱心に質問していました。

6/23

蛍の里を目指して



スカイフィールド富郷のホタル増殖池に、嶺南活性化協議会主催によりおよそ 500 匹の蛍の放虫が行われました。これは蛍の里づくりを目指した取り組みの一つで、現在生息する蛍をさらに根付かせようと、奈良県から仕入れた蛍を、同協議会員や地元住民約 50 人が集まり、一人ひとりが力強く光る蛍を夜空に放ちました。

6/23

全日本ジュニアテコンドー選手権大会に出場



土居町にあるテコンドー道場の烈蹴会（瀬戸丸崇代表）の瀬戸丸遥さん（長津小学校 1 年生）が、長野県で開催される第 10 回全日本ジュニアテコンドー選手権大会への出場報告のため、市長を表敬訪問しました。遥さんは、長崎県で開催された西日本地区大会の小学 1 年生女子の部で準優勝し、出場権を獲得しました。

6/28

全国小学生学年別柔道大会出場



真鍋萌乃華さん（川之江小学校 5 年生）が 8 月に札幌市で開催される、第 14 回全国小学生学年別柔道大会に出場することを報告するため、市長を表敬訪問しました。真鍋さんは「全国大会では強い人がたくさんいると思うけどなるべくたくさん勝てるように頑張りたいです」と力強く抱負を話しました。

7/9 FC 今治 VS 栃木ウーヴァ FC



サッカー日本フットボールリーグ（JFL）はスカイフィールド富郷で第2ステージ第1節の試合を行い、FC 今治が栃木ウーヴァFCに4-0で快勝しました。エスコートキッズを務めた市内の小学生やボールボーイを務めた三島高校サッカー部員、市内外から駆け付けた約 800 人のファンは、選手たちのプレーを熱心に応援していました。

7/9 お茶摘み体験 in 富郷



JA うま富郷出張所周辺でお茶摘み体験が開催されました。これは、子どもたちに農業体験をしてもらうとともに、生産者と消費者の交流を図り、本市の主要農産品の一つであるお茶を広く知ってもらおうと、JA うま富郷茶業部会が毎年行っているものです。参加した約 70 人は摘み取った茶葉を使って番茶作りなどを体験しました。

7/14 伊予三島・川之江ロータリークラブ
短期交換留学生が訪問



四国ロータリークラブが行っている短期留学生交換事業で、本市にホームステイをしているアメリカからの留学生らが市長を表敬訪問しました。留学生らは練習した日本語でそれぞれ自己紹介を行い、市長は「滞在中はいろんなことを体験して、しっかり学習して楽しんでください。」と歓迎の言葉を送りました。

7/5, 7, 10 交通安全母の会 国体お守り作り



川之江公民館、土居庁舎、中之庄公民館で交通安全母の会による、えひめ国体出場者向けお守り作りが行われました。これは、まもなく開幕するえひめ国体出場選手や平成 30 年度新入学児童に配布し、交通安全を啓発するものです。参加した会員のみなさんは一つひとつ心を込めて一生懸命作っていました。

市長の
ひとりごと



四国中央市長
篠原 実

「ダムのお水」

一歩外に出れば、汗が噴出しそうな猛暑の中、東京都内であつちこつちへ顔を出すため、タクシーに乗った。

タクシーの中は、クーラーが効きすぎて寒い。温度調節にドライバースも大変だ。

体調管理は、冬より夏が難しい…納得である。そんな中、ダムの水量が人間の思うようにいかない。貯水率が早く70%までなって欲しいが、台風でも来ない限り難しい。

しかし、台風や集中豪雨は、人の世の思惑どおりにはならない。九州北部豪雨は、明日はわが身である。

人間の社会は、どっか最後は心の支えとして、神仏に祈り、すがり、そして念じるしかないのかも知れない。「常におかげさまで」という謙虚さが必要であると、この夏は思い知らされている。

9万市民のくらしは、全てその水を根本にして成り立っている。

行政も、もちろんである。

一方で、夏のお祭りは、健康で暑さに負けず、頑張ろうという気持ちと、他人を思いやるあたたかさ求めてあるものだと思う。

「それでも、暑いな…」と、ぼやくのは仕方がない。「みんな生身の人間なものな」と、これまた納得である。

